

平成28年 7 月 4 日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者 ※法人・団体等の記入方法は注意事項②参照

(ふりがな) (しみんだんたい らいとれーるとちぎ おくび かずひこ)

氏名 市民団体「雷都レールとちぎ」 奥備 一彦

(郵便番号) 〒 [REDACTED]

住所 [REDACTED]

職業 代表

年令 75 歳

3 事案に対する賛否

賛成

4 利害関係を説明する事項 ※利害関係人のみ記入 (注意事項③参照)

5 自宅、勤務先等の連絡先電話番号

自宅: [REDACTED]



公述しようとする者 奥備 一彦（市民団体「雷都レールとちぎ」代表）

私は、「平28第4001号 軌道運送高度化実施計画の認定」（以下「LRT事業」と称す。）に賛成です。

1. 宇都宮市のLRT導入構想は、平成5年「宇都宮市街地開発組合^{注1}」全員協議会において、当時の組合長（渡辺文雄、栃木県知事）の「芳賀工業団地と清原の工業団地の間にできるニュータウンとJR宇都宮駅を結ぶ新交通システムを勉強する…工業団地で働く皆さんの交通の便利に大変なプラスになる」との提案を採択したことに始まります。

2. 市民団体「雷都レールとちぎ^{注2}」は、LRT導入区間を駅東口から清原までだけではなく、JR宇都宮駅を横断し西へ、健康の森まで全長15kmの導入を目指して、平成16年、宇都宮商工会議所青年部、宇都宮青年会議所、駅東まちづくり21、清原地域振興協議会などの市民団体が中心になって、会員70名で立ち上げました。代表は私、奥備一彦です。現会員は約350名。主な活動^{注3}は会員の勉強と市民との対話です。

3. 平成17年、鬼怒川の東側に立地する国内有数の企業と労働組合に、LRT導入に関し理解と協力を得るべく、3～4の事業所を訪ね、トップと面談しました。栃木県や宇都宮市や芳賀町に多額の納税をしている企業の責任者から次のような発言があり、強いショックを受けました。

- ・「速達性の対応策には協力する。これは本社からの強い指示である。」
- ・「しかし、この地に立地した企業にとって、この問題が早期に解決されることは、栃木県や宇都宮市との間で、暗黙の了解事項であった。それにも拘らず長期間何の改善もなされない」と行政に対する不信の念を示し、「多くの従業員が、この恐るべき渋滞を作ったのは進出企業の自分たちだとの負の意識を持って毎日通勤している」こと
- ・挙句には「いつまでも宇都宮で操業し続けると思われては困る」との発言もありました。

訪問の目的もそこそこに、直ちに行政の幹部にこの件を伝えました。

4. 立地企業からの発言は宇都宮市民に対し、どんな意味を持つのでしょうか？宇都宮の東部地区に限られた、しかも当事者だけの問題として片付けていいものなのでしょうか？

ここで、宇都宮市の平成26年度の財政を概観し、考えてみましょう。自主財源比率は66.0%（中核市平均51.7%）で、中核市の中で3位、それを可能にしているのは、市税931億円です^{注4}。

この税収額中、清原工業団地の企業と、東部工業団地の正規社員で宇都宮市在住の人

とが納めている税金がいくらになるのかを私なりに推計してみました。少なく見積もってもなんと100億円超^{注5}で、市税収額全体の11%を占めています。

若し、この100億円が無かったら、宇都宮市が「住みよさ度」全国1位、「行政サービス水準」全国2位^{注6}の高い評価を受けている現状は実現しなかったと言っても過言ではありません。

東部地区の交通渋滞の改善も目的の1つである宇都宮市のLRT事業は、この地区の、しかも関与する企業や人の為だけではなく、全市民1人1人の子育て、福祉、教育、ゴミ処理、移動、安心・安全を維持するために必ず実施しなければならない事業なのです。クルマがあるからLRTに乗らない、自分は沿線に住んでいないから、自分の税金は使わなくてくれなどの議論をすべき次元の事業では無いのです。決して他人事ではないのです。

5. さて、私達は今、少子高齢化という、これまで人類が経験したことのない、そして避けて通れない難問に直面しています。

少子は労働力人口が減って税収が減少することに、高齢化・長寿化は医療・介護の需要が急激に増大し、支出は膨大になることを意味します。宇都宮市の老年人口は平成27年が5人に1人、平成52年には3人に1人になります^{注7}。現状の税収の仕組みを維持するだけでは行政サービスは市民の負担を求めるか、その質を落とすか、止めるか、そして破綻するしかありません。そうすると世の中、暴動が起こるのではなからうか、想像するだに怖くなります。次世代の為に、今すぐにでも手を打たねばなりません。

6. LRT事業を具現化することで、東部地区の長期に渡る渋滞問題を緩和して立地企業との約束を果たし、従業員の憂いを解消して気持ちよく働いてもらい、税収の土台を強固なものにするのです。更に税収底上げをする為に、LRTによるまちづくりを礎に、宇都宮を魅力的な都市にして、①市内及び周辺自治体に新たな企業立地を促し、その従業員には可能な限り多く、宇都宮に住んでもらう方策を示すのです。②東京から1時間足らずの宇都宮は世界から見ても、日本で1番近い地方都市という地理的優位性も生かして、国内外からの交流人口を増やすのです。また、首都の補完業務を行う等により消費活動を活発化させるのです。

LRTの導入は、観光産業へ大きく寄与し、税収に良い結果をもたらすでしょう。2015年度県内外からの観光客数は9,052万4千人、観光消費額は4,700億円。これは全国有数の農業県である栃木の農業生産額、約3千億円の1.6倍にあたります。県は2020年を目標年次として「栃木県観光客立県戦略」を策定、観光客数を4年間で650万人、7.2%増の9,700万人を設定しました^{注8}。

ここで参考までに富山市の観光客数を見ると、LRT導入前と導入後では12~14%増加しています^{注9}。LRT事業はプロジェクト規模の大きさ、内容とも国内外から注

目され、前述の地理的条件もプラスに効いて、LRTが導入された宇都宮には、富山市以上の観光客増加率が期待できます。きっと栃木県の目標に大きく寄与することでしょう。観光業の乗数効果は運輸、商業、農業など幅広い業種に、しかも大きな額で及ぶことが知られており、この点でも税収の底上げになります。

言うまでもなく、LRT沿線や周辺の不動産価格は上昇し、固定資産税や不動産取得税が増えて税収の底上げに大きく働きます。

7. LRTの交通まちづくりを成功させる為には、市民による協力が不可欠で「雷都レールとちぎ」は志を同じくする市民団体や学校・自治会と手を組んで、市民として何ができるのか、何をすべきか研究し、提案し、協力の環を作り、広げていくことをお誓いして、私の公述を終わります。

ご清聴有難うございました。

(注釈)

1. 組合長は栃木県知事、副組合長は宇都宮市長。組合員は栃木県議と宇都宮市議各5名。
地方公共団体の1つ。

2. 「雷都」は夏、雷の多い宇都宮の別称。

3. 活動

- ・平成20年冊子『よくわかる交通まちづくり』の編集・刊行
- ・清原～健康の森をイメージしたNゲージ走行模型の作成
- ・「いつでも、だれでも、どこへでも」チラシの製作
- ・市内のイベントに年3～4回参加し、模型を走らせ、資料を配布しながら、市民との対話
- ・平成17年第1回「人と環境にやさしい交通を目指す全国大会」を宇都宮大学工学部で開催。以後、立命館大学、横浜国立大学、東京大学、岡山大学、新潟において、各地の市民団体が持回りで開催。平成26年宇都宮共和大学で第7回を開催。参加人数延800名。
- ・署名活動
- ・市長、市議会への陳情書、意見書の提出

4. 広報「うつのみや」 平成27年12月

5. 推計

清原工業団地の法人市民税等 62.3億円…A

平成26年4月1日現在 3工業団地の正規従業員数

清原	11,608人	}	合計34,650人 この内6～7割が宇都宮市在住 65%として22,522人…B
芳賀	10,862人		
芳賀・高根沢	12,180人		

市民1人当たりの市税額

$931 \text{ 億円} / 519,000 \text{ 人 (市の人口)} \approx 179,000 \text{ 円} \dots C$

納税額 (貢献額)

$A + C \times B \approx 102.6 \text{ 億円}$

6. 「みやナビ」2014

7. 「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」 宇都宮市 平成27年2月

8. 下野新聞「宿泊者増へ対策強化せよ」2016. 6. 11

9. 富山市の観光入込数

	岩瀬カナル会館 (人)	富山観光物産 センター入館者 (人)	富山市観光客 入込数 (千人)
平成16年度	9, 848	322, 149	5, 542
平成17年度	6, 415	302, 625	5, 741
平成18年度	73, 317	282, 068	6, 259
平成19年度	61, 611	262, 962	6, 532
平成20年度	50, 202	256, 226	6, 566
平成21年度	42, 252	256, 075	6, 207
平成22年度	24, 791	244, 883	**
平成23年度	25, 383	263, 323	4, 651
平成24年度	22, 929	293, 050	5, 103
平成25年度	18, 318	291, 805	6, 397
平成26年度	18, 653	307, 652	6, 429

出典

岩瀬カナル会館入館者数、富山観光物産センター入館者数は富山市統計書
富山市観光局入込数（H16 - H21）は富山市観光実践プラン（素案）、
同（H23 - H26）は富山県観光客入込数（推計）より抜粋

<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/johotokeika/tokei/tokeisho/tokeisho.html>
（富山市統計書）

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1401/kj00013393.html
（富山県観光客入込数（推計））